

Press Release

報道用資料

2010年4月5日

小型車の新車販売は西ヨーロッパ以外の大半の主要市場での回復が予測される

2010年世界市場小型車需要予測

全世界の小型車販売が2009年の底から回復へ転じている現在、成熟市場は総じて2009年以前の水準に徐々に戻り始め、中国、インド、ブラジル等の新興市場は着実に成長をし続けるとJ.D. パワー・アンド・アソシエイツは見ている。

J.D. パワーでは2010年の全世界の小型車の販売台数は2009年比で4%増加して6,690万台になると予測している。2010年の2月まででは、全世界の小型車の季節調整済み年率換算値は6,870万台であり、前年同期の5,660万台と比べて著しい回復を見せている。

「各地域の景気回復および消費意欲の向上により、2010年の全世界での販売は好スタートを切っている」とJ.D. パワー・アンド・アソシエイツのグローバル・オートモーティブ・オペレーションのシニア・バイスプレジデントであるジョン・ハンフリーは述べている。「この好調な見通しにもかかわらず、いくつかの地域、特に2009年に政府による刺激対策が販売を牽引した地域は、今年も苦戦が続くであろう」

北米の小型車¹市場

米国における小型車の新車の一般販売とフリート販売を含めた合計販売台数は2009年の1,150万台から2010年に1,170万台へ若干増加するものとJ.D. パワーでは予測している。

北米市場においてはカナダとメキシコでも販売台数が若干増加すると見ているので2010年の販売台数は2009年比で12%増加して1,410万台との予測である。カナダでは2009年の146万台から153万台、メキシコでは2009年の751千台から882千台まで増加すると見込んでいる。

欧州の小型車市場

西ヨーロッパにおける小型車の2010年の販売台数は、2009年の1,500万台から8%減少して1,370万台となると予測している。減少の主な要因は2009年に販売を牽引した廃車・代替奨励金が終了したことにある。西ヨーロッパの諸国の中で減少率が最も著しくなるのはドイツとイタリアであろう。

一方、東ヨーロッパでは市場の緩やかな回復が始まると見ている。2010年の販売台数は1%と小幅な増加をして320万台近くまでとなるであろう。増加の主な要因はロシアにおける廃車インセンティブであり、それによりロシアでの販売台数が2010年には2009年比で10%伸び、160万台になると予測している。

アジア太平洋の小型車市場

アジア太平洋地域の成熟市場では、増加の程度は国によってさまざまであり、2010年に販売台数が増加する市場もあれば、横ばいに留まる市場もあるであろう。日本における2010年の年間販売台数は、トヨタのリコールが影響しておらず、2009年比で11%増加して500万台になると予測している。2010年のオーストラリア市場での

¹小型車とは乗用車、多目的乗用車（SUVとMPV）、6トン未満の軽商業車と定義されている。

販売は2%とわずかであるが増加する見込みである。一方、韓国の市場は2009年比で0.5%とわずかに縮小するという予測である。

アジアの新興市場では、2010年の見通しはもっと明るく、中国、インド、ASEAN各国の市場がそれぞれ2年連続して伸びると予測している。中国における2010年の小型車の販売台数は2009年比で8%増加して1,400万台に達すると見ている。これは現在の売れ行き状況をベースに計算した控えめな予測であり、中国の販売台数は政府のインフレ対策によっては、予測を超える可能性がある。インドの年間販売台数は2009年比で12%増加して230万台になると見込んでいる。ASEAN各国の市場における合計販売台数は2009年の160万台に対して12%増加して180万台になると見ている。

南米の小型車市場

南米地域の販売台数はブラジルにおける著しい成長に牽引され、2009年比で15%増加して460万台になると見込んでいる。ブラジルの市場は2010年に12%成長して販売台数が340万台となる勢いである。

「市場の回復と成長のペースは地域によってかなりばらつきが見られるが、自動車市場は明らかに良い方向へ向かっている」とジョン・ハンフリーは言う。「全世界の販売が加速して再度2007年に記録した7,000万台のピークに向かうにあたり、新興市場の重要性は高まる一方である」

全世界の代替パワートレイン車の販売台数

全世界におけるハイブリッド自動車の2010年の販売台数は2009年比で16%増加して84万台になると予測している。ハイブリッド自動車の単独市場として米国が数年来最も大きい市場であったが、2009年には日本におけるハイブリッド車の販売台数が急激に増加し、日本が米国を追い抜いた。増加の主な要因は新型のトヨタプリウスと新型のホンダインサイトの成功およびハイブリッド車やその他の低燃費車の販売を押し上げた政府のインセンティブであった。

バッテリー電気自動車（BEV）の2009年の販売台数は世界全体でも1万台に及ばず、市場シェアは0.1%未満であった。2010年の販売台数は微増の2万台と見られる。ただし、2015年までにBEVの販売台数は30万台近くまで伸び、市場シェアは0.3%に達すると予測される。2015年のBEVの販売の約半分は中国が占めると予測されている。他の市場では、イニシャルコストの高さ、限られた走行距離、そして充電設備や電池交換システムの不足に対する消費者の懸念によってBEVの導入はもっと時間がかかる可能性がある。

「中期予測ではBEVにとって一番可能性がある市場は中国だ。これは政府の支援、国内のリチウムイオン電池の供給業者、BEVの普及を支えるために必要なインフラを整備する積極的な意思と能力など、さまざまな要因による」とJ.D. パワー・アンド・アソシエイツのグローバル・フォーキャスティングのエグゼクティブ・ディレクターであるジェフ・シュスターは述べている。「BEVは消費者から大変な興味を持たれており、盛んにPRされてきた。しかしながら、同等のガソリン車と比べた場合の価格プレミアムが非常に高いため、そしてプラグインハイブリッド車の方は価格が安く走行距離がはるかに長いため、BEVの実際の全世界での販売が本格化するためには意外に長い時間がかかるかもしれない。」

<株式会社 J.D. パワー アジア・パシフィックについて>

当社は米国 J.D. パワー・アンド・アソシエイツの日本を含むアジア地域でのビジネスの拠点として1990年に設立された。自動車業界を始めコンピューター、通信関連、OA機器、サービス産業、金融など様々な業界において顧客満足に関する調査やコンサルティングを実施している。プライバシーマーク取得。会社概要や提供サービスなどの詳細は当社ウェブサイト www.jdpower.co.jp まで。

<J.D. パワー・アンド・アソシエイツについて>

ザ・マグロウヒル・カンパニーズの一部門である J.D. パワー・アンド・アソシエイツ（本社：米国カリフォルニア州ウェストレイク・ビレッジ）は、マーケティング・リサーチ、生産・販売予測、コンサルティング、教

育・トレーニングおよび顧客満足度調査を実施している国際的な情報サービス企業である。数百万人の消費者からの回答をもとに品質や顧客満足度に関する調査を毎年行なっている。

<ザ・マグローヒル・カンパニーズについて>

1888年に設立されたザ・マグローヒル・カンパニーズ (NYSE: MHP) は、スタンダード&プアーズ、マグローヒル・エデュケーション、ビジネスウィーク、J.D. パワー・アンド・アソシエイツなどを通じて金融サービス、教育、ビジネスに関する情報を提供している国際的な情報サービス企業である。世界 40 カ国に 280 カ所以上の拠点を有し、2009 年の売上高は 59.5 億ドルにのぼる。詳細はウェブサイト www.mcgraw-hill.com まで。

<当調査に関するお問い合わせ先>

(株) J.D. パワー アジア・パシフィック

クライアント・サービス グループ

住 所： 東京都港区虎ノ門 5-1-5 虎ノ門 45MT ビル (〒105-0001)

電 話： 03-4550-8060

F A X： 03-4550-8152

e-mail： cc-group@jdpower.co.jp

<ご注意>

本紙は報道用資料です。(株)J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く本資料に掲載されている情報および結果を広告または販促活動に転用することを禁止します。